

電気系（電気工学専攻・電子工学専攻）

博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース・融合工学コース）（5年型）
 修士課程教育プログラム

I. 専攻別試験区分および志望区分

従来の修士課程と同じ修士課程教育プログラムと、博士後期課程を連携した博士課程前後期連携教育プログラム（5年型：高度工学コースと融合工学コース）の試験区分を設ける。合格者決定法はそれぞれの試験区分により異なる。各プログラムの志望区分を表1に示す。

表1 各教育プログラムの志望区分一覧

専攻	志望区分	研究内容	対応する教育プログラム		
			連携教育プログラム (融合工学コース)	連携教育プログラム (高度工学コース)	修士課程教育 プログラム
電気工学専攻	1	先端電気システム論 (非線形力学の工学的応用、システムデザイン、パワープロセッシング、パワー集積回路、センサシステム) 引原教授、奥田助教	融合光・電子科学 創成分野	光・電子理工学	任意の志望区分を選択することができます。
	2	自動制御工学 (制御工学、システム・制御理論、数値最適化手法、システム解析) 萩原教授、蛭原准教授、細江助教	融合光・電子科学 創成分野		
	3	複合システム論 (複合・非線形システム論、生命システム論・医工学、システム最適化、エネルギー局在現象) 土居教授、田中俊准教授、木村講師†	融合光・電子科学 創成分野		
	4	生体機能工学 (脳機能イメージング、光学的磁気センサ、拡散MRIと機能的MRI、生体磁気科学、認知神経科学) 小林哲教授、笈田助教、伊藤助教	融合光・電子科学 創成分野		
	5	超伝導工学 (超伝導体の電磁現象、超伝導マグネットの電磁特性、超伝導の医療応用、超伝導のエネルギー応用) 雨宮教授	融合光・電子科学 創成分野		
	6	電磁回路工学 (電気電子回路、電気電磁回路、電磁波工学、EMC設計工学、エネルギー回路) 和田教授、久門准教授、ISLAM 講師	融合光・電子科学 創成分野		
	7	電磁エネルギー工学 (電磁気学、マイクロ磁気学、電磁界解析、計算工学) 松尾教授、美船講師	融合光・電子科学 創成分野		
	8	電波科学シミュレーション (電磁力学、プラズマ理工学、計算機シミュレーション、宇宙空間物理学) 大村教授、海老原准教授	融合光・電子科学 創成分野		
	9	宇宙電波工学 (宇宙電波工学、宇宙プラズマ理工学) 小嶋教授、上田助教	融合光・電子科学 創成分野		
	10	マイクロ波エネルギー伝送 (マイクロ波工学、無線電力伝送、マイクロ波応用工学) 篠原教授、三谷准教授	融合光・電子科学 創成分野		
	11	情報可視化 (科学的可視化、ビジュアル分析、因果関係可視化) 小山田教授、夏川助教†	融合光・電子科学 創成分野		

	12	複合メディア (映像メディア、画像認識・理解、次世代インターネット技術、コミュニケーション媒介) 中村裕教授、近藤講師	融合光・電子科学 創成分野		
	13	優しい地球環境を実現する先端電気機器工学 (電気機器、輸送機器、再生可能エネルギー、超伝導機器) 中村武教授†、WEI 助教†	融合光・電子科学 創成分野		
電子工学専攻	14	集積機能工学 (超伝導デバイス工学、超伝導材料、テラヘルツ分光、極微真空電子工学) 掛谷准教授、後藤准教授	融合光・電子科学 創成分野	光・電子理工学	任意の志望区分を選択することができます。
	15	極微電子工学 (量子スピントロンクス、純スピン流デバイス物性、トポロジカル物性物理) 白石教授、安藤准教授†、大島助教	融合光・電子科学 創成分野		
	16	応用量子物性 (光量子情報、ナノフォトニクス、光量子計測) 竹内教授、岡本准教授、高島助教	融合光・電子科学 創成分野		
	17	半導体物性工学 (半導体工学、電子材料、エネルギー変換素子、電子デバイス工学) 木本教授、西助教、金子光助教	融合光・電子科学 創成分野		
	18	電子材料物性工学 (分子エレクトロニクス、電子材料物性工学、ナノエレクトロニクス、バイオエレクトロニクス) 山田教授、小林圭准教授	融合光・電子科学 創成分野		
	19	光材料物性工学 (光電子材料、光物性工学、光応用工学) 川上教授、船戸准教授、石井助教	融合光・電子科学 創成分野		
	20	光量子電子工学 (固体電子工学、光電子工学、光量子電子工学) 野田教授、浅野准教授、石崎助教	融合光・電子科学 創成分野		
	21	量子電磁工学 (量子エレクトロニクス、周波数標準、超精密計測、量子工学、電磁波工学) 杉山准教授、中西助教	融合光・電子科学 創成分野		
	22	ナノプロセス工学 (ナノ構造物理、デバイスプロセス工学、新機能デバイス工学) MENAKA 講師、田中良講師、井上助教	融合光・電子科学 創成分野		
	23	先進電子材料 (先進機能材料・デバイス、機能創成、電子材料プロセス工学) 藤田教授、金子健講師	融合光・電子科学 創成分野		

†・・・特定教員

入学後に履修する教育プログラムを、修士課程教育プログラム（2年）と博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コースおよび融合工学コース）（5年）の試験区分から願書提出時に選択して下さい。

II. 募集人員

電気系（電気工学・電子工学）修士課程教育プログラム・博士課程前後期連携教育プログラム
あわせて若干名

III. 出願資格

募集要項 4 ページ「II-i 出願資格」に記載の条件を満たす者。

博士課程前後期連携教育プログラム志願者は、以上の他に、下記(V.(2)項)の出願資格審査に合格する必要がある。志願者は所定の書類をVI.に記載の要領で桂キャンパスAクラスター事務区教務掛（電気系）に提出すること。

IV. 学力検査日程

(1) 修士課程教育プログラム

期 日	時 間	試 験 科 目
2月12日(火)	9:00～12:00	専門基礎 a
	13:00～16:00	専門基礎 b
2月13日(水)	13:00～	面接

*試験場は桂キャンパス A クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

(2) 博士課程前後期連携教育プログラム（5 年型：高度工学コースおよび融合工学コース）

(a) 出願資格審査日時

1月4日(金)～ 1月9日(水)の いずれか一日	10:00～12:00 の間のいずれかの時間帯(60分):第一次出願資格審査 14:00～17:00 の間のいずれかの時間帯(20分):第二次出願資格審査
--------------------------------	--

*試験場は桂キャンパス A クラスターである。

*志願者には口頭試問に関する場所・時間の詳細を郵便その他の方法で通知する。

*第一次出願資格審査の結果は出願資格審査日当日の 13:00～13:30 の間に通知する。

第一次出願資格審査に合格した志願者は第二次出願資格審査を受けること。

*京都大学工学部電気電子工学科を卒業見込み、あるいは卒業した者は、第一次出願資格審査を免除する。

*第二次出願資格審査結果の通知と願書の提出

出願資格審査結果は 1 月 10 日 (木) までに通知する。出願資格審査に合格した志願者は入学願書を所定の期間に提出すること。出願期間末日まで十分時間がないので注意すること。

(b) 面接

2月13日(水)	10:00～17:00 の間のいずれかの時間帯(約 10 分)	面接
----------	---------------------------------	----

*試験場は桂キャンパス A クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

V. 入学試験詳細

(1) 修士課程教育プログラムの試験科目

英語 筆記試験は行わず、TOEFL 等の成績で代用する。提出方法については、項目 VI. 1. (a) を参照。

[専門基礎 a] 配点 300 点

数学 *、電磁気学 1 (静電界、静磁界、電磁誘導)、電気回路 (交流回路、分布定数回路、過渡現象)、物性基礎 (量子力学の基礎、統計力学の基礎、固体物理の基礎) からの出題計 4 問から 3 問選択する。

* 数学は、微積分 (一変数関数の微積分、多変数関数の微積分)、常微分方程式、線形代数 (行列と連立一次方程式、ベクトル空間、行列の固有値と対角化)、複素関数論、フーリエ解析の範囲から出題

[専門基礎 b] 配点 300 点

電磁気学 2 (荷電粒子の運動、マクスウェルの方程式と電磁波)、論理回路 (論理関数、組合せ回路、順序回路、演算回路) または自動制御 (連続時間システムの古典制御理論)、半導体・固体電子工学 (半導体、固体電子物性・デバイス) からの出題計 3 問を解答する。

* 論理回路または自動制御はいずれか 1 題を出題し、これを「出題計 3 問」のうちの 1 問と数える。

(2) 博士課程前後期連携教育プログラムの試験詳細

第一次出願資格審査、第二次出願資格審査、および面接により可否を判定する。

第一次出願資格審査

電気電子工学分野 (数学および物理を含む) の基礎学力に関する口頭試問 (約 60 分) を行う。京都大学工学部電気電子工学科を卒業見込み、あるいは卒業した者は、第一次出願資格審査を免除する。

第二次出願資格審査

志望する連携教育プログラム (5 年型) における研究計画に関する口頭試問を行い、これに英語 (TOEFL 等) の成績および学部の成績を考慮して資格審査を行う。この口頭試問 (8 分説明 12 分試問) では、説明用資料 (パワーポイントのスライドを印刷したものなどで A4 判 5 枚以内) を用意し、書画カメラを用いて説明すること。

面接

専攻長が、研究の進捗状況などについて面接を行う。

(3) 有資格者決定法および志望区分への配属

1. 修士課程教育プログラム

専門基礎に関する筆記試験の総得点 (600 点満点) が 300 点以上で、さらに日本語、英語の力が修学に支障なきものと認められる者を有資格者とし、有資格者の中から総得点に応じて合格者を決定する。

筆記試験の注意事項

- ・試験中に使用を許可するのは、鉛筆、シャープペンシル、鉛筆削り (電動式を除く)、消しゴム、時計 (時計機能のみのもの) に限る。
- ・電卓、辞書およびこれに類するものの持ち込みは認めない。
- ・携帯電話等の電子機器類は、なるべく持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- ・試験当日は、試験開始 20 分前までに指定された試験室前に集合すること。なお、試験開始時刻から 30 分以降は入室できない。

2. 博士課程前後期連携教育プログラム (高度工学コースおよび融合工学コース)

第一次出願資格審査、第二次出願資格審査および面接により決定する。博士課程前後期連携教育プログラム志願者は出願資格審査申込書を VI. 2. に記載の受理期間中に提出し、出願資格審査を受けること。出願資格審査には指導予定教員の推薦 (受入承諾書) と学部成績証明書、TOEFL 等の成績証明書が必要である。指導予定教員より受入承諾書を交付してもらう際には、事前に十分面談を重ねること。受入承諾書のない出願資格審査申込書は受理しない。出願資格審査に合格した志願者は工学研究科指定の願書を提出して面接を受けること (志望区分への配属は内々定となる)。正式な合格通知は募集要項 11 頁記載の日時に行う。出願資格審査に合格しなかった受験者は修士課程教育プログラム志望の願書を提出することができる。

VI. 出願要領

1. 修士課程教育プログラム※電気系は official Score Report は提出不要。工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の書類を提出すること。出願書類とは提出先が異なるので注意されたい (様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること)。

(a) TOEFL 等成績証明書

TOEFL-iBT または IELTS を有効とする。IELTS の場合は Academic Module のみを有効とする。TOEFL の成績証明書 (Examinee Score Report) の原本または IELTS の成績証明書 (Test Report Form) の原本 (コピーや受験生自身で印刷したものは不可)、(受験日(平成 31 年 2 月 12 日)に有効なものに限る)を次頁 3. の別途書類提出先に提出すること(提出後の変更は認めない)。なお、TOEFL-PBT の成績証明書は受け付けない。英語を母国語とする受験生は「英語を母国語とする旨の宣誓書」を本専攻に予め提出することにより TOEFL 等の成績証明書の提出を免除する。なお、受験資格等の問題で TOEFL を受験することが困難な場合は、予め次頁 3. に記載する問い合わせ先まで連絡すること。

2 月 4 日(月)16 時必着(厳守)。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること。※学内便不可
注) TOEFL、IELTS の成績は試験実施日から 2 年間有効である。

提出された TOEFL 等の成績証明書は、筆記試験終了後に返却する。

(b) 志望研究室申告票 (様式 1)

「志望研究室申告票」(様式 1) に志望順位を記入し、その申告票を次頁 3. の別途書類提出先に (a) の提出期限までに提出すること(期限内必着)。IX. の「教員・研究内容一覧」を参照して申請すること。

2. 博士課程前後期連携教育プログラム

工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の書類を次頁 3. の別途書類提出先に提出すること。出願書類とは提出期間および提出先が異なるので注意されたい(様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること)。

(1) 出願資格審査のための提出書類

(a) 出願資格審査申込書 (様式 2)

(b) 受入承諾書 (様式 3)

(c) 学部成績証明書 (工学研究科に提出する出願書類とは別に用意すること。本学電気電子工学科卒業あるいは卒業見込みの者は必要ない。)

(d) 研究計画説明書 (様式 4)

(e) TOEFL 等の成績証明書

TOEFL-iBT あるいは IELTS を有効とする。IELTS の場合は Academic Module のみを有効とする。TOEFL の成績証明書 (Examinee Score Report) の原本または IELTS の成績証明書 (Test Report Form) の原本 (コピーや受験生自身で印刷したものは不可)、(受験日(平成 31 年 2 月 12 日)に有効なものに限る)を次頁の別途書類提出先宛に提出すること(提出後の変更は認めない)。TOEFL-PBT の成績証明書は受け付けない。

万一、下記の出願資格審査受理期間に TOEFL-iBT の成績証明書の原本を提出できない場合は、Web 上で閲覧できる成績 (TOEFL-iBT の場合は My Home Page の View Scores) をプリントアウトしたものを同受理期間中に提出し、それと同一受験の成績証明書原本を、VI. 1. (a) に記載する修士課程教育プログラムの TOEFL 等の成績証明書提出期限までに、次頁の別途書類提出先宛へ提出すること。

英語を母国語とする受験生は「英語を母国語とする旨の宣誓書」を本専攻に予め提出することにより TOEFL 等の成績証明書の提出を免除する。なお、受験資格等の問題で TOEFL を受験することが困難な場合は、予め次頁 3. に記載する問い合わせ先まで連絡すること。

注) TOEFL、IELTS の成績は試験実施日から 2 年間有効である。

博士課程前後期連携教育プログラムの志望者は、以上の書類 ((a)~(e)) を出願資格審査受理期間【平成 30 年 12 月 10 日(月)から 11 日(火)16 時(厳守)】までの間に、次頁 3. に記載する提出先に提出すること。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること(期限内必着)。提出された TOEFL 等の成績証明書は、第二次出願資格審査の口頭試問後に返却する。

出願資格審査のための口頭試問の時間および場所は 1 月 4 日 (金) までに出願者に連絡する。

(2) 志望研究室申告票 (様式 1)

「志望研究室申告票」(様式 1) に志望研究室を記入し、次頁 3. に記載する別途書類提出先に (1) の提出期限までに提出すること。

3. 問合わせ先・別途書類提出先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂
京都大学桂キャンパス A クラスター事務区教務掛(電気系)
電話 075-383-2077
E-mail: 090kakyomudenki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(メールで問い合わせる場合は、電気系志望と記述すること)

HP: <http://www.ee.t.kyoto-u.ac.jp/>

なお、京都大学工学部電気電子工学科以外のものについては、志望研究室申告票で第一位に志望する予定の研究室に必ず事前に連絡をとること。

Ⅶ. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には3種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「電気・電子工学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (a) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース(融合光・電子科学創成分野)
- (b) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース(光・電子理工学)
- (c) 修士課程教育プログラム(電気工学専攻・電子工学専攻)

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する(V.(3)参照)。

詳細については、「I. 専攻別志望区分一覧」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、学生募集要項14頁以降記載の「教育プログラムの内容(融合工学コース)」および、「Ⅷ. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

なお、(a)、(b)の連携教育プログラム志望にあたっては、志望区分の指導予定教員の承諾を得る必要がある。教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、上記Ⅵ.の3.に問い合わせること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース(融合光・電子科学創成分野)】

21世紀においては全世界規模で情報処理量とエネルギー消費が爆発的に増大し、既存の材料・概念で構成されるハードウェアの性能限界と地球資源の枯渇が顕著になると予測されています。このような課題の解決に貢献し、光・電子科学分野で世界を先導するためには、電気エネルギー・システム工学、電子工学、量子物性工学、材料科学、化学工学、光機能工学、集積システム工学、量子物理工学など複数の異分野を融合して新しい学術分野を開拓し、かつ当該分野を牽引する若手研究者、高度技術者を育成することが重要です。

本教育プログラムでは、光・電子科学に関わる融合領域を開拓する教育研究を通じて、新しい学術分野における高い専門的知識・能力に加えて、既存の物理限界を超える概念・機能を創出する革新的創造性を備えた人材の育成を目指します。究極的な光子制御による新機能光学素子や高効率固体照明の実現、極限的な電子制御による耐環境素子や超集積システムの実現、光・スピン・イオンを用いた新機能素子や新規プロセスの開発、強相関電子系物質や分子ナノ物質の創成と物性制御、高密度エネルギーシステムの制御とその基礎理論、新しい物理現象を用いたナノレベル計測とその学理探求などの融合分野において、常に世界を意識した教育研究を推進します。様々な分野で世界的に活躍する教員による基盤的および先端的な講義、各学生の目的に応じたテーラーメイドのカリキュラムやインターンシップ等を活用した教育、光・電子理工学教育研究センターや高等研究院(光・電子理工学)の協力を得て行う先端的融合研究を通じて、広い視野と高い独創性、国際性、自立性を涵養し、光・電子科学分野を牽引する人材を育成します。

【高度工学コース(光・電子理工学)】

高度でインテリジェントな将来型情報通信社会を実現するために必要なハードウェア技術の基礎から最先端研究レベルまでの学習と、デバイスからシステムに至るまで、発展する電気電子フロンティア基盤科学技術の修得を通して、広範な科学知識とフレキシブルな創造性を備えた豊かな人材を育成します。このプログラムの推進する教育及び研究は、光においては、任意の波長、強度、方向の、発光及び受光を可能にして光を自在にあやつり、電子においては、これまでの概念を超えるデバイスや量子効果などを通して、光と電子を極限まで制御することとその理解を目的とします。フォトニック結晶やワイドギャップ半導体、分子ナノデバイスや量子凝縮系デバイスなどの新規材料・デバイス創成、パワーデバイス、電子・光・イオンによる革新的ナノプロセス、集積システム、環境エネルギーシステムとその制御、量子生体計測など、世界でトップクラスの研究成果を挙げている分野で教育と研究を推進することにより、博士号取得の段階で、自立し、幅広い専門知識を有し、国際的に通用する一流の人材を育成します。

【修士課程教育プログラム】

本系専攻においては、電気エネルギー、電気電子システム、光・電子材料とデバイス、電子情報通信などの専門分野における基礎学問の発展と深化、ならびに学際フロンティアの拡充と展開による創造性豊かな工学技術を構築することを目的とした教育と研究を行います。具体的には、電気エネルギーの発生・伝送・変換、超伝導現象の諸応用、大規模シミュレーション、自動制御、量子生体計測や、エレクトロニクス of 深化と異分野融合による、超伝導材料、イオンプロセス技術と応用、半導体機能材料、有機ナノ電子物性、電子・光・スピン・量子状態の制御などに関する教育と研究により、基礎から先端技術までの知識を修得して、工学技術開発の基本を体得し、豊かで弾力ある創造性と幅広い視点ならびに意欲的な先進性を有する先端技術研究開発者を育成します。

Ⅹ. 教員・研究内容一覧

(電気工学専攻)

教員名	研究内容	区分
引原 教授 奥田 助教	<u>先端電気システム論研究室</u> (1) 電力変換回路に関する研究 (2) 分散電源を含む電気エネルギーネットワークの制御に関する研究 (3) 非線形理論の工学的応用に関する研究 (4) MEMS の設計、SiC パワーデバイスの回路実装に関する研究	第1
萩原 教授 蛭原 准教授 細江 助教	<u>自動制御工学研究室</u> (1) デジタル制御系と周期時変系の解析と設計 (2) 半正定値計画に基づくロバスト制御系の解析と設計 (3) 確率的なダイナミクスをもつ系の解析と制御 (4) 機械系、空圧系に対する現代制御理論の応用に関する実験的研究	第2
土居 教授 田中俊 准教授 木村 講師†	<u>複合システム論研究室</u> (1) 生命システム論・医工学(心臓、膵臓、脳・神経系などの数理モデリングと解析) (2) システム最適化(生産スケジューリング・ロジスティクスなど) (3) 多自由度非線形系の数理と応用(非線形波動・局在振動に関する解析と応用) (4) 複合システム論、非線形システム論など、システム工学に関わる数理的諸問題	第3
小林哲 教授 笈田 助教 伊藤 助教	<u>生体機能工学研究室</u> (1) ヒト高次脳機能の非侵襲計測とイメージング (2) 超高感度光ポンピング原子磁気センサ(OPM)の開発と生体磁気計測 (3) 神経磁場に依存する磁気共鳴信号を捉える新たな機能的 MRI (4) 拡散 MRI に基づく精神・神経疾患の定量評価と診断支援 (5) 超低磁場マルチモーダル MRI システムの開発	第4
雨宮 教授	<u>超伝導工学研究室</u> (1) 超伝導体の電磁現象 (2) 超伝導マグネットの電磁特性 (3) 超伝導の医療応用 (4) 超伝導のエネルギー応用	第5
和田 教授 久門 准教授 ISLAM 講師	<u>電磁回路工学研究室</u> (1) 電磁現象を含む回路システムの基礎研究 (2) 高速高周波回路のモデル化と設計法の研究 (3) 電子機器・回路・通信の EMC 設計とシステム信頼性に関する研究 (4) 電力フローの設計・インタラクティブ制御・電力システムの診断	第6
松尾 教授 美舩 講師	<u>電磁エネルギー工学研究室</u> (1) 時空間計算電磁気学とその応用 (2) マイクロ磁気学による磁性材料特性シミュレーション (3) 鉄芯材料モデリングと電磁界解析への応用 (4) 高速高精度電磁界計算技術	第7
大村 教授 海老原 准教授 (生存圏研究所)	<u>電波科学シミュレーション研究室</u> (1) 非線形プラズマ波動現象の計算機実験 (2) 計算機実験による磁気嵐とオーロラ嵐の研究 (3) 極端宇宙天気現象における地磁気誘導電流の研究	第8
小嶋 教授 上田 助教 (生存圏研究所)	<u>宇宙電波工学研究室</u> (1) 科学衛星による宇宙空間プラズマ波動観測 (2) 科学衛星搭載観測機器の超小型化に関する研究 (3) 宇宙電磁環境のモニターシステムの研究	第9
篠原 教授 三谷 准教授 (生存圏研究所)	<u>マイクロ波エネルギー伝送研究室</u> (1) 宇宙太陽発電所 SPS に関する研究 (2) マイクロ波を用いた無線電力伝送に関する研究 (3) マイクロ波を用いた新材料創生に関する研究	第10
小山田 教授 夏川 助教† (学術情報メディアセンター)	<u>情報可視化研究室</u> (1) 計算結果や計測結果データの可視化技術に関する研究 (2) 人の推論を支援するビジュアル分析に関する研究 (3) データから因果関係の探索を支援するデータ分析技術の研究	第11

中村裕 教授 近藤 講師 (学術情報メディアセンター)	<u>複合メディア研究室</u> (1) 映像メディアの自動獲得とインタラクティブメディア (2) 画像認識・映像処理(人間の行動認識やその環境認識など) (3) 映像・音声による遠隔通信システム(遠隔講義環境など) (4) ネットワークによるコミュニケーション技術	第12
中村武 教授† WEI 助教† (寄附講座)	<u>優しい地球環境を実現する先端電気機器工学研究室</u> (1) 回転機を中心とする先端的電気機器の研究 (2) 輸送機器に関する研究 (3) 再生可能エネルギーの利用技術に関する研究 (4) 超伝導機器に関する研究	第13

(電子工学専攻)

教員名	研究内容	区分
掛谷 准教授 後藤 准教授	<u>集積機能工学研究室</u> (1) 高温超伝導体のジョセフソン効果とエレクトロニクス応用 (2) 新奇超伝導体の物性解明と新規超伝導デバイスの開発 (3) 巨視的量子状態のテラヘルツ時間領域分光 (4) 極微真空デバイスの開発と評価に関する研究	第14
白石 教授 安藤 准教授 † 大島 助教	<u>極微電子工学研究室</u> (1) 半導体量子スピントロニクスの研究 (2) 純スピン流物性の研究 (3) トポロジカル絶縁体などを用いた固体物性物理の基礎学理の研究	第15
竹内 教授 岡本 准教授 高島 助教	<u>応用量子物性研究室</u> (1) 光量子コンピュータ・量子シミュレーターや集積光量子回路の実現に関する研究 (2) 光量子情報等への応用にむけた、極微光デバイスの実現に関する研究 (3) 光子のさまざまな量子もつれ状態の生成と制御に関する研究 (4) 量子光を用いた、高感度・高分解能の新規光計測に関する研究	第16
木本 教授 西 助教 金子光 助教	<u>半導体物性工学研究室</u> (1) 低次元半導体ナノ構造の電子輸送とデバイス応用 (2) 抵抗変化不揮発性メモリの基礎研究 (3) ワイドギャップ半導体シリコンカーバイド(SiC)の結晶成長とデバイス応用 (4) 新規窒化物半導体の創製とヘテロ構造デバイスの作製	第17
山田 教授 小林圭 准教授	<u>電子材料物性工学研究室</u> (1) 分子エレクトロニクス・有機薄膜デバイスに関する研究 (2) 走査型プローブ顕微鏡によるナノレベルでの構造、電子材料物性に関する研究 (3) 新規ナノ電子材料の探索とそのナノエレクトロニクス応用 (4) バイオナノデバイス・センサーの構築とその特性評価に関する研究	第18
川上 教授 船戸 准教授 石井 助教	<u>光材料物性工学研究室</u> (1) 窒化物半導体を用いた微小光源の作製に関する研究 (2) 半導体のナノ局在系光物性に関する研究 (3) 高分解能フォトンセンシング技術に関する研究 (4) 照明用 LED の効率と演色性に関する基礎技術の確立	第19」
野田 教授 浅野 准教授 石崎 助教	<u>光子電子工学研究室</u> (1) フォトニック結晶を用いた高ビーム品質・高輝度半導体レーザーの開発と応用 (2) フォトニック結晶レーザーの高機能化(ビーム偏向制御・短パルス化等)に関する研究 (3) 熱輻射制御による高効率光源およびエネルギー変換に関する研究 (4) 高 Q 値ナノ共振器と極微小光回路による自在な光子制御に関する研究 (5) ワイドギャップ半導体を用いた次世代フォトニック結晶の開発	第20
杉山 准教授 中西 助教	<u>量子電磁工学研究室</u> (1) 単一あるいは複数個のイオンの冷却・トラップと、光時計及び基礎物理学への応用 (2) 光周波数コムが発生と光シンセサイザへの応用 (3) イオン、光子などの量子の制御 (4) 電磁メタマテリアル	第21
MENAKA 講師 田中良 講師 井上 助教 (光・電子理工学教育研究センター)	<u>ナノプロセス工学研究室</u> (1) ナノプロセス技術の深化に関する研究 (2) 熱制御に向けたナノ構造開発・評価 (3) フォトニックナノ構造レーザーの解析・作製・評価 (4) ナノ構造における電磁界シミュレーション	第22

藤田 教授 金子健 講師 (光・電子理工学教育研究センター)	<u>先進電子材料研究室</u> (1) 量子機能酸化物半導体薄膜とナノ構造の育成・物性 (2) 電子材料における機能の融合と量子機能の創成 (3) 新しい電子材料プロセス	第23
--------------------------------------	---	-----